

目的 本課題におけるこれまでの研究結果¹⁾により、模型実験において、居間における視環境要素の空間効果の因子構造のうち、第一因子である豪華さ（Gorgeousness）因子に家具の影響が大きいことが明らかとなった。そこで実空間における検討を行うための基礎資料を得るために、実際に居住している住宅の家具の実態調査を行い、空間の形状と家具についての検討を試みた。

方法 近畿一円の戸建て、集合住宅を対象に、実測調査を実施した。測定項目の主な内容は、(1)室、開口部の形状と大きさ (2)家具寸法 (3)家具配置である。得られたデータより、家具の床面占有率、壁面占有率、空間占有率等を求め検討した。

結果 戸建て、集合住宅の主な相違点は、空間容積の違いであり、各々、家具床面占有率、空間占有率は、あまり差が認められなかった。しかし、家具量のばらつきは、室の広さに関係があり、床面積が小さいほど大きい。壁面に関してみると、家具の壁面占有率はほぼ決まっており、家具の高さもほぼ一定の傾向を示す。このことから、家具の増加は、垂直方向よりも水平方向への伸びが考えられる。支持用家具の型と配置は、戸建ては対面型が多く、また対面型は、コア、セミコア型をとりやすい。集合住宅では、壁面に接してI型を置く場合が多い。支持用家具型は、床面積と相関がみられる。楽器、ステレオ等を含む収納用家具については、家具数の多い戸建ては、コ型、分散型が多く、集合住宅はII型、L型が多くみられた。

1) 馬場ら “室内視環境要素の心理的影響に関する実験的研究（第5報）”（社）日本家政学会関西支部第5回研究発表会 1984年5月 兵庫